



看護部通信

2019年 1月



あけましておめでとうございます。

新たな時代に向かう2019年となりました。4月から県立病院機構は、第3期中期5カ年計画が始まります。今年度は残すところ3か月、各部署で第2期計画の集大成をすすめています。

今年もよりよい看護部を目指して努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。〈看護管理室〉



新しい家族

3病棟 N・N

我が家に新しい家族が仲間入りしました。生後3週間の子猫です。子供たちは大喜びで、5歳の息子が“ミルク”と名付けました。

家に来たばかりの頃は震えていて、緊張と不安からなのか警戒しているようでした。早く仲良くなりたい息子たちと緊張MAXのミルク。

初めて猫を飼う私は、息子二人の賑やかで慌ただしい生活の中「ミルクの世話ができるだろうか・・・」と不安でいっぱいでした。

お互いに少しずつ慣れて、今では子猫と子供たちは家中を走り回っています。子供たちのそばで安心して過ごしているミルクの姿に私も癒やされ、元気をもらっています。

ミルクが家族の仲間入りとなってますます賑やかな我が家を、今年も笑顔いっぱいの一年にしたいと思っています。

これから子供たちは命の大切さを学んでいくことでしょう。



新しい出会い

3病棟 T・I

閉鎖病棟では看護業務にカギは欠かせません。一般病棟に異動となった時、カギ生活との別れを以前の看護部通信に書いた事がありました。今回、再び閉鎖病棟に異動となりカギを手にした事・・・つまり続編になります。

以前使っていたカギとの感動の再会を密かに期待していました。肌身離さず持ち歩き、まめに洗うなど、愛着をもっていましたが、残念ながら同じものではありませんでした。新しい主人のもとで大切にされていると言い聞かせ、新たなカギとこの先の看護を共にしていこうと思います。

3年間離れていたカギ生活ですが、若い頃初めて持った時を思い出し、カギを持つ身の責任を考える良い機会になりました。いかに普通と異なる環境を患者さんに提供しているか、「精神科の当たり前意識」の怖さを感じています。

患者さんの気持ちになることは大事ですね

